

City Lights Note

1章 わたしが出会った〈人間屋の話〉続編

- ◆われらの時代の〈雑文豪〉草森紳一の本を読もう
- ◆在野の哲学者・内山節の思想とライフスタイル
- ◆函館の街を甦らせた作家佐藤泰志の復活ムーブメント
- ◆マイナーポエット高木護のローアングルな詩の魅力
- ◆DJを生業としてきた詩人・清水哲男の軽快なフットワーク
- ◆映画タイトルデザインを飛翔させた赤松陽構造の活動屋魂
- ◆抗日遊撃戦を闘った斎藤龍鳳という男の足跡

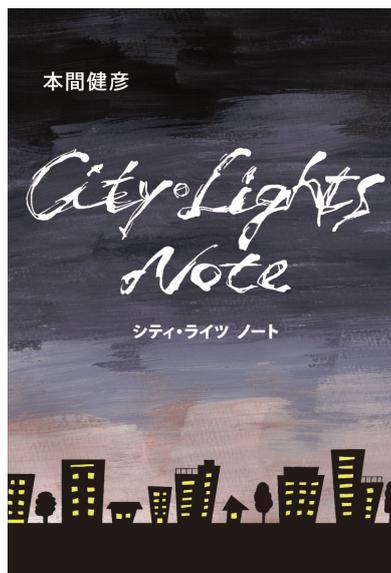
2章 いい本・いい映画に出会った時のノート

- ◆福島の老歌人・佐藤祐禎さんとキリギスの灯りやさん
- ◆北沢夏音『Get back, SUBj』を読み再会した小島素治
- ◆牧瀬茜詩集『うみにかえりたい』
- ◆なかにし礼詩集『平和の申し子たちへ』
- ◆中山千夏『主人公はきみだ——ライツのランプをともしよう』
- ◆写真家・渡辺眸が炙りだした『1968新宿』
- ◆ドキュメンタリーの地平を拓いた『三里塚に生きる』
- ◆《笑いの哲人》マルセ太郎を悼む
- ◆「君こそは友」という仲ではなかったけれど……。
- ◆黒田オサムを大化けさせたドンちゃんの慧眼
- ◆家庭の団欒に背を向けた最後の文士
- ◆《山谷のキリスト者》が記録した『岡林信康黙示録』

3章 ぼくは埋め草や雑文を書いて歌ってきた

- ◆歴史家・色川大吉の八ヶ岳「森の家」訪問
- ◆山口百恵の「横須賀ストーリー」
- ◆海軍機関学校教官時代の芥川龍之介の憂鬱
- ◆映画『故郷』の舞台となった瀬戸内海倉橋島
- ◆夜明けのスカットが流れていた60年代末新宿
- ◆高層ビルの谷間で聴こえてきた鳥の声
- ◆イタリア版「傘が無い」
- ◆高田豊と石川三四郎
- ◆われに五月を!
- ◆群馬県甘楽町と東京都北区の有機的關係
- ◆有機農業の本づくりのすすめ
- ◆生涯現役のミニコミ編集者を目指す
- ◆お寺もデンデケデケ
- ◆無知を恥じ、忌野清志郎に拍手!
- ◆わが草莽のファミリー・ストーリー

観察する編集者、
雑文のすすめ



本書は、長年小さな雑誌の編集者として黒布働きをして来た著者が、出会った人・本・映画などについて綴ったエッセイ・コラム・論考集。河島英五の『時代おくれ』という歌に、「人の心をつづける／好きな誰かを思いつづける 時代おくれの男になりたい。」そんなフレーズがありましたけれど、そんな気分で書かれたエッセイ集です。

著者プロフィール

ほんま・たけひこ 1938年旧満州(現・中国東北部)遼陽生まれ。夕刊紙『内外タイムス』社会部記者、『話の特集』編集者を経て、1969～1973年までタウン誌『新宿プレイマップ』編集長。1992年10月、市民が創るタウンジャーナル『街から』を創刊、編集・発行人として隔月刊で26年間・157号(2019年2月終刊)まで刊行。著書『街頭革命』(サンポウブックス)、『街を創る夢商人』(三一書房)、『戦争の落とし子ララバイ』(三一書房)、『日本食肉文化史』(伊藤記念財団)、『高円寺修子伝説』(第三書館)、『人間屋の話』(街から舎)『イチョウ精子発見の検証』(神泉社)、『高田渡と父・豊の「生活の柄」』(社会評論社)、『60年代新宿アナザー・ストーリー』(社会評論社)など。



発行

街から舎

東京都豊島区长崎 3-13-15-101

TEL 03-6638-6685 FAX 03-6638-6684

E-mail: machikara@nifty.com

[直接販売 お振込み先]

三井住友銀行 目白支店 口座番号 6854471 (株)街から舎

注文書	貴店名・帳合印	冊数	書名
	申込日 月 日	冊	<p>シティ・ライツ ノート</p> <p>本間健彦 著 カバー・デザイン 赤松陽構造 装幀 松本孝一 定価 2,000円+税 四六判/320頁/並製 ISBN 978-4-939139-28-4</p>